

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4(2022)年 6月 30日

愛知県知事 殿

提出者

住 所 愛知県小牧市東三丁目1番地

氏 名 住友理工株式会社

小牧製作所長 浦野 勝義

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0568-77-2049 （安全環境課）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	住友理工株式会社 小牧製作所
事業場の所在地	愛知県小牧市東三丁目1番地
計画期間	令和4(2022)年 4月 1日 ~ 令和5(2023)年 3月 31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
1 事業の種類	19 : ゴム製品製造業
2 事業の規模	342億円/年
3 従業員数	2,859名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	添付資料参照

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

CSR委員会—環境委員会

|

全社環境大会—事務局：環境管理部

|

小牧製作所 所長

|

安全環境課

|

住理工クワイ ECO

(製作所内廃棄物処理業務)

産業廃棄物管理責任者  
特別管理産業廃棄物管理責任者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状

【前年度（令和3年度）実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木屑	金属屑	ガラス屑
排出量	377 t	1,024 t	1,663 t	77 t	147t	8.5 t

(これまでに実施した取組)

目標値：令和4(2022)年度原単位を平成27(2017)年度実績比の5%削減

活動の進め方：部署ごとに削減テーマアップを行い、削減活動を実施。(不良ロス低減、歩留アップ)

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木屑	金属屑	ガラス屑
排出量	374 t	1,013 t	1,646 t	76 t	146t	8.4 t

	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>1) 目標値：令和5(2023)年度排出量を令和4(2022)年度実績比の1%削減</p> <p>活動の進め方：部署ごとに削減テーマアップを行い、削減活動を実施。(不良ロス低減、歩留アップ)</p> <p>2) 分別の見直しを行い、産廃→有価または事業系一般に切り替える。</p>
産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>汚泥、廃油、廃プラスチック類、木くず、鉄くず類、非鉄くず類 蛍光灯類 等有価物も含め分別 実施。</p>
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>分別の細分化及び見直しにより、有価物または事業系一般廃棄物への見直しを計画する。</p>

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度(            年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
2 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度(令和3年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	
	自ら熱回収を行った	t	t

	産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	400 t	t
(これまでに実施した取組) アルカリ廃液の自社排水処理施設での処理			
②計画	<b>【目標】</b> 特になし		
	産業廃棄物の種類	廃油	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	396 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
1 現状	<b>【前年度（      年度）実績】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
2 計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t

		(今後実施する予定の取組)					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
1 現状	【前年度（令和3年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木屑	金属屑	ガラス屑
	全処理委託量	377t	1,024t	1,663t	77t	147t	8.5t
	優良認定処理業者への処理委託量	199t	624t	46t	0t	145t	7.7t
	再生利用者への処理委託量	367t	497t	1,564t	77t	147t	0.7t
	認定熱回収業者への処理委託量	95t	41t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	10t	12t	43t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組) 可能な限り再生利用者への処理委託を行い、資源循環化を図る。						

(第5面)

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木屑	金属屑	ガラス屑
	全処理委託量	374t	1,013t	1,646t	76t	146t	8.4t

		優良認定処理業者への 処理委託量	197 t	618t	46t	0t	144t	7.6t
		再生利用業者への 処理委託量	363 t	492t	1,549 t	76t	146t	0.7t
		認定熱回収業者への 処理委託量	94t	41t	0t	0t	0t	0t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	10t	12t	43t	0t	0t	0t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引継ぎ、資源循環化に主眼をおき、再生利用業者への委託推進を図る。</p>							
※事務処理欄								

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。



分類	廃棄物名称	委託処理	再資源化	備考
汚泥	汚泥(無機汚泥)	造粒固化	再生土資源化	
	汚泥(無機混合材料)	混練	他材料と混練後 セメント原料	
	汚泥(無機混合スラッジ)	改質分級	他材料と混練後 セメント原料	
	汚泥(試薬類)	焼却	—	
廃油	社内廃液移送	自社処理	—	
	廃油(塗装液)	混合エマルジョン化	燃料化	燃料
	廃油(アルカリ)	油水分離・中和	燃料化、セメント原料	燃料
	廃油(化成皮膜・液状ゴム・イソシアネート・シリコン)	焼却	—	
	廃油・廃酸・廃アルカリ(試薬類)	焼却	—	
	廃油(潤滑油)	油水分離	燃料化	燃料
廃プラスチック類	廃プラ(ゴム屑)(樹脂屑)	選別・破砕・圧縮	燃料化	燃料
	廃プラ(複合品)	選別・破砕・圧縮	燃料化	燃料
	廃プラ(包装類・紙袋)	選別・破砕・圧縮	RPF燃料化	燃料
	廃プラ(混合廃プラ)	選別	埋立	
	廃プラ(雑芥・机・ボトル類)	破砕・選別	—	
	廃プラ(塗料カス)	焼却	—	
	廃プラ(不燃物)	直接埋立	—	
木屑	木屑(廃パレット・梱包材)	破砕	燃料化	燃料
金属屑	金属屑(プラスト粉)	混練	樹脂と混練後電炉へ原料化	原料溶融
	金属くず(乾電池)	焼却・ばい焼	原料化	原料溶融
	金属くず(廃電気機械類)	破砕・選別	原料化	原料溶融
ガラス・陶磁器屑	ガラス・陶磁器くず	直接埋立	—	
	蛍光灯	破砕	各素材再資源化	